

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026年1月29日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	商学部商学科グローバルビジネス専攻
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2026年1月13日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	カリフォルニア州立大学フラトン校 (日本語名) California State University, Fullerton(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2025年8月～2026年1月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1学期: 4月上旬～7月下旬 2学期: 9月中旬～2月上旬	1学期: 8月下旬 ～12月下旬 2学期: 1月下旬 ～5月中旬 3学期: 4学期:
学生数	42,000人
創立年	1957年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (ドル円) (1 現地通貨 = 151 円)	B 日本円	備考
授業料	5,622	円	
宿舍費	9,200	円	ミールプラン、手数料込み
食費		円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	99.64	円	
現地交通費		円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
旅費(留学中)		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	760	46,760 円	形態: Anthem(現地大学必須)、明大サポート(明治大学必須)
渡航旅費	397.8	68,160 円	往路:68,160 円、復路:397.8 米ドル
ビザ申請費	535	円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	16,614.44 (=2,508,780 円)	114,920 円	
総計(A+B) ※円		2,623,700 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：羽田空港 目的地：LAX 空港 経由地：

復路 出発地：LAX 空港 目的地：羽田空港 経由地：

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：UNITED 航空 料金：68,160 円

復路 航空会社：JAL 料金：397.8 米ドル ∴合計：129,819 円

航空券購入方法

旅行代理店(店名：)

インターネット(サイト名：skyscanner)

その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

学生寮(寮の名前：Hope International University) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

個室 相部屋(同居人数 3 人)

3) 共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

留学先による斡旋

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

On-campus の寮とは少し離れていて、寮のクオリティや食堂の食のバリエーションは On-campus と比較すると劣る点がありますが、授業の教室に少し近くなったこと、別の大学の学生とジムや食堂で交流できたことは良かったと思います。寮費の支払いや都築に関するメールの返信は、迅速な対応とはいえないので、余裕を持って対応した方が良いでしょう。スタッフメンバーは対面で会うと、気さくに話しかけてくれる良い人たちばかりでした。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: _____)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: _____)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

特に犯罪に巻き込まれたことはありませんでした。念の為、図書館でもトイレに行く際には、荷物を持つての移動を心がけましたが、治安が悪いと感じた場面や危険性を感じたことはなかったです。一度周囲の高校に爆破予告が来たみたいですが、その時はメールの即時通知が複数来ました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

私の寮での利用は部屋や場所、時間帯によって不安定で、満足いく利用はできませんでした。友人によると、android製品やwindows製品の利用者は問題なく利用できたみたいです。apple製品は、深夜帯のみんなが利用しない時間なら辛うじて利用可能な時もありましたが、私はsim契約で無制限プランに変更して対応しました。しかしながら、sim通信も寮内では不安定な時間帯があるので、本キャンパスの図書館などの施設を利用するのが無難かなと思います。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

学内に銀行窓口があり、留学生への対応も慣れていたので、そこで簡単に口座を開設することができます。開設後はWISEを利用して、両親から現地口座に送金してもらい、銀行でキャッシュカードに付帯するデビットカード機能を利用しました。開設に必要な書類は学生ビザやパスポートほどだったと思います。開設希望の旨を伝えると、開設手続きの日程予約してくれます。混雑していなければ、その場で開設手続きが可能です。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

WISEのデビットカードかSony bank walletを日本で発行しておく、銀行のデビットカード発行までの間、支払い方法に困らないと思いました。もちろんクレジットカード支払いも便利ではありますが、レートが悪く、手数料もかかってしまうので、口座開設までの支払い手段のために有効です。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

授業料の支払いはFlywireを通じて支払いしました。手順としては、現地大学の保険料の支払いを済ませないと、授業料の支払いは行えず、授業料の支払いの期限は秋学期からの留学の場合、8月1日まででした。現地大学のoh-meijiのようなサイトにアクセス権を得ることができたら、student homepageがあるので、そこから手順に従って支払います。flywireを通じた銀行送金は容易で、手順に従えば、追加の送金番号も不要だった覚えがあります。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
3 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)	
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
urban economics (ECON 361)		都市経済学
科目設置学部・研究科	経済学科	
履修期間	2025 年秋学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式 in person(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Dr. Mitchell Livy	
授業内容	どうして企業や個人は都市部を選択するのか、その選択が与える影響について。テキストに沿って教授が作成したスライドをもとに、授業が進み、学生に対して問題提起をしながら進行する。学生同士がディスカッションする時間や、グループワークを通じて、授業理解を深める。	
試験・課題等	中間試験 2 回、期末試験 1 回、レポート課題 1 回、宿題 5 回(期末試験の範囲は全範囲)	
感想を自由記入	教授からの問いは、ロジックを正しく理解していれば答えに導き出せるようになっており、教授の意図から多少外れた回答をした際にも、「そういう考え方もあるよね」と、結論だけでなく思考のプロセス自体を評価してくれる印象でした。若干計算を扱う時がありましたが、基本的な計算能力で問題ありません。試験も計算機の貸与があり、経済理論のために計算を手段として用いるイメージだったので、数学に苦手意識がある方でも取り組みやすいと思います。グループワーク(ゲーム)で良い成績を残すと平常点に加算されるので、みんな真剣に楽しみながら、授業に参加していました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Intermediate microeconomics (ECON 310)	中級ミクロ経済学
科目設置学部・研究科	経済学科
履修期間	2025 年秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式 in person(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Professor Adrian Fleissig, Ph.D. Economics and Statistics
授業内容	計算を用いて企業や個人の経済行動を分析する。
試験・課題等	中間試験 2 回、期末試験 1 回(中間試験の日程は決まっておらず、学生の多数決によって決定する)、期末試験の範囲は中間試験の範囲外)
感想を自由記入	数学の微積分の履修履歴が求められたが、基本的な数学の知識で対応可能でした。教授が作成した問題プリントをもとに授業が進み、その解説と圧倒的な量の板書を移す必要があります。ずっとペンを走らせていた記憶があります。スマホの利用が厳しく禁じられていて、板書のメモとしての利用も注意を受けている学生がいました。理解が困難な点は、教授が授業中に定期的に学生と対話しながら見回ってくれるので、そのタイミングで遠慮なく質問することができます。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction multi-ethnic literature of the U.S. (CHIC 250)	アメリカ少数民族文学研究
科目設置学部・研究科	チカーナ・チカーノ学科
履修期間	2025 年秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式 in person、終盤学生のプレゼンを軸にディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Ana Nez
授業内容	教授が選択した文学について探究する。事前にその文学を読み込み、意見を持った上で授業に参加し、教授が解説する。教授からの問題提起があるので、学生同士のディスカッションを通して、全体で意見を共有する。
試験・課題等	基本的に授業毎に課題(感想文、学生同士の意見交換)、パワポプレゼン(グループワーク)
感想を自由記入	履修した授業の中で一番ディスカッションなど意見を求められる授業でプレッシャーを感じながら学習していました。教授自体が厳しいのではなく、生徒一人ひとりの意見を尊重してくれて、加えて違った新たな視点を与えてくれる印象でした。なかなか日本でアメリカの少数民族に触れる機会がありませんでしたが、彼らの一部には家族間での価値観の違いやアイデンティティの認識の齟齬といった悩みをか変えている人々がいるということが印象的でした。 各学生の顔と名前が完全に一致しており、名前の正しい発音まで確認して下さる教授は初めてでした。全学生に対しフラットな視点を持っており、リスペクトを持って接してくれる教授でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Understanding Business (BUAD 210)	ビジネス理解
科目設置学部・研究科	経営学科
履修期間	2025 年秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式 in person(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 165 分が 1 回
担当教授	Zack Dafaallah
授業内容	経営学の基本的な知識から若干会計学？までの範囲までの講義。各授業毎にオンラインで確認テストがあり、それが平常点に加算される。
試験・課題等	ケーススタディ 3 回、中間試験 2 回、期末試験 1 回
感想を自由記入	この授業は履修した授業の中で一番難易度が高いと感じた科目です。一部の学生と対話形式で進む時間がたまにあり、正直置いて行かれていたと感じた時もありました。授業後のオンラインテストの復習で、必死に理解を深めました。1 回目の中間テストの学生全体の成績を見て、2 回目の中間試験は易化させることを知らされたのですが、あまり難易度は変わらなかった印象です。教授としての具体的かつ深みのある説明は興味深かったのですが、試験の難易度が少し高いように感じました。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	留学に興味を抱き英語の勉強開始(10月)、IELTS(12月)
留学開始年	1月～3月	説明会参加、出願
	4月～7月	ビザ取得完了(4月)、航空券予約、寮確定(7月)、出発(8月)
	8月～9月	
	10月～12月	中間試験、期末試験
留学/帰国年	1月～3月	帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私は多文化共生について研究しており、日本に存在するマイノリティの視点を獲得するためには、自身が海外でマイノリティになることが有効なのではないかと感じたため、留学を決意しました。また、アメリカという多文化国家の中で、どのように人々が共生しているのか、より実践的な知見を得られる。そして、過去に旅行でロサンゼルスを訪れたことがあり、その時に気候や人柄の魅力を感じ、また戻って来たいと強く実感したためロサンゼルスの大学を選択しました。

留学はするまでが大変と聞いていましたが、その言葉通り準備が一番大変でした。ビザの手配や寮の手配も全て学生自身で行う必要があり、支払い方法や送金手段など文化の違いを感じました。特に私は、寮費の支払いに手間がかかってしまいました。クレジットカードの上限額の関係から、2枚のクレジットカード情報を書面に記載して送信するという文化の違いに困惑し、海外送金の利用の申し出をしました。私の知識不足から、送金に必要なルーティングナンバーなどさまざまな必要情報を取得し切るまで、多くの時間を要してしまいました。事務スタッフは最後まで対応してくれましたが、支払い手段について事前によく理解しておくこと、そしてなるべくメールのやり取りを少ない回数で済ませることをもっと意識するべきだったと思います。

履修決定もたくさんの選択肢から選ぶことは難しいと思いますが、学校名と教授の名前を検索すると、学生からの教授・授業の評価を閲覧できるサイトがあるので、それを参考にして履修を組むことをお勧めします。基本的に金曜日に授業が入っている人は少なく、授業の時間帯を夕方までにまとめて、上手に履修を組むと学業以外の留学生活も充実させることができると思います。

私は野球部入部に挑戦し、人数の関係で実施されたトライアウトをなんとか合格することができました。そこでは、費用は部によって異なると思いますが、アリゾナへの遠征や定期的に行われる練習・試合やイベントに参加するなど、お金には代え難い経験をすることができたと思っています。偶然にも、現在日米間で野球が盛り上がっているというタイミングにも恵まれ、英語の壁、文化の垣根を、スポーツを通じて超えているという実感をしました。他にもたくさんのクラブが新歓のような形で学期序盤にイベントを開催しているので、そこに足を運び、自分に合うクラブを探してみると良いと思います。

学業以外でも、キャンパス周辺の公共交通機関も充実しており、ディズニースタジアムまでも容易にアクセスできるのも魅力的だと思いました。近くにスーパーや飲食店、バスで日本製品を扱うスーパーがあったりと、充実しています。フラトン周辺は比較的落ち着いた印象を受け、治安が悪いと感じた瞬間は一度もありませんでした。加えて、ミールプランも充実しており、オンキャンパスの寮でも、私の寮のように大通りを挟んで隣接する Hope International University に滞在しても、基本的にバイキング形式で食に困る事はないと思います。しかし、ミールプラン自体はテスト終了から1週間程で閉まってしまうので、テスト終了と同時に実家に帰省するか、フードパントリーや近くのスーパーを活用して自炊に励む学生が多かったです。

もっと準備しておくべきだと思ったのは、自分の趣味についてもっと深く語るようにしておくこと、日本の文化についてもっと説明できるようにしておくことです。私を感じたのは、彼らは私が英語を話せるかよりも、私自身がどのような人間なのか、日本でどのような生活をしていたのかについて興味を持っていたのだと感じました。それに対して、もっと自分自身を開示する能力があれば良かったと強く感じました。

もし留学を少しでも悩んでいるなら、挑戦してみる選択をするべきだと強く感じました。挑戦できることに感謝して、安全に、健康に、留学生活を楽しんでください。